

農事組合法人 まっさき (宇佐市松崎)

【経営の概要】

経営形態	生産組織 (特定農業法人)
モデルの種類	平地モデル
設立時期	(総会) 平成15年8月8日 (登記) 平成15年10月17日
構成戸数	5戸
労働力	基幹5名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類	大 豆	その他 (野菜)
平成19年	4.2	1.5	2.7	2.7	1
平成20年	4.2	1.8.5	2.7	2.2	2
平成21年	4.3	1.8	2.3	2.3	2

【機械装備】

トラクター (41~60ps)	5台	フロンソワー、ディバイダー、溝掘機	各1台
コンバイン (普通、大豆2、5条、6条)	5台	ブームスプレヤー、管理機、ハロー	各2台
ユンボ、育苗播種機、育苗洗浄機	各1台	ロータリー	2台
畦ローター、播種機 (5条)	各1台	自動播種機、自動定植機、自動収穫機	各1台
田植機 (8条)	2台	小型オニオンピッカー、剪葉機	各1台
施肥機、運搬機	各1台		

【経営の特徴】

- ①地区内で高齢化による離農が増加し経営面積が拡大している。70haまでの集積が当面の目標
- ②経営の拡大と安定を図るため、玉ねぎ栽培 (2ha) に取り組んでいる。
- ③シートパイプを導入し、圃場の汎用化に努め大豆栽培を可能としている。
- ④畦畔の除去による大区画化で、機械作業効率の向上と畦塗り草刈りの労力軽減を進めている。

【導入した新技術】

<p>◎野菜の省力栽培技術</p> <p>(手法) 作業の省力化・効率化のために自動定植機による定植を11/8~12/4にかけて実施した。</p> <p>また、品種については作業分散のため収穫時期の異なる複数の品種を作付した。</p> <p>(結果) 自動定植機の導入により定植時間が2.4時間/10aと低い労働時間での定植が可能となった。</p> <p>また、収穫時期の異なる複数品種を栽培したことから、適期収穫による収量アップが可能となった。</p>
--

◎高度施肥管理技術の導入

(手法) 石灰資材の投入にあたっては、麦の作付前の12/4と12/15に土壌を採取、分析を行った。
(結果) 適正な苦土石灰施用量 が散布され、酸性障害が発生することなく良好な生育が確保された。

ほ場No.	pH	EC	炭酸カルシウム施用量 (kg/10a)	苦石灰施用量 (kg/10a)	備考
1	4.92	0.03	150	144	目標pH6.2
2	5.01	0.03	70	67.2	〃
3	5.69	0.05	0	0	〃
4	5.75	0.02	0	0	〃

◎耕起・施肥・播種同時作業技術の導入

(手法) 大豆の播種を、簡易培土板による畦立て同時播種技術 (12ha)、アッパーローターによる畦立て同時播種技術 (11ha) で行った。また、両者を比較する実証ほを設置した。

(結果) 畦立て同時播種を行うことにより、初期生育の確保が図られたほか、播種方法の違いによる栽培管理上の留意点が明らかになった。

◎多目的管理作業技術の導入

(手法) 近隣集落の大規模認定農業者と連携して、ブームプレイヤーによる適期防除を延べ84ha (水稲、麦、大豆、たまねぎ) で実施した。

(結果)
営農組合が栽培する全ての品目で利用したことから、限られた資本整備が極めて効率的に活用され、経営面でのコスト削減に大きく寄与した。

◎その他特徴的な取組

土地利用型と園芸品目を組み合わせた構成員專業型の経営体として、また、大区画化ほ場のモデルとして市内はもとより県内外より視察が相次いでいる (21年度実績: 9回)。

◎主な波及活動

宇佐市集落営農連絡協議会研修会 (7/9)、北部地区集落営農研修会 (12/11) での発表のほか、管内技術者を対象とした研修会での説明を行った。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(対県平均比)	全算入生産費(対県平均比)	所得
経営全体	5.6hr (H21) (32%) (水稲)・麦・大豆のみ	58,622円 (120%) (水稲・麦・大豆のみ)	24,372 (H20)
水稲	7hr (H21)	48,866円 (H20)	
麦	6hr (H21)	62,440円 (H20)	
大豆	4hr (H21)	62,440円 (H20)	
たまねぎ	164hr (H21)	167,129円 (H21)	